

気弱な教師が、勉強を教えたヤクザと、
ヤンキー生徒に立ち向かう

ヘッド・バッド・ティーチャー

修正版

作・ほら

登場人物表

公男（30）

気弱な高校教師。

虎（35）

出世を目指すヤクザ。

アキラ（18）

公男のクラスのヤンキー

アキラ一派 アキラの一派。3人くらい。

いじめられっ子（18） 公男のクラスの

いじめられっこ

年配の先生（60代）

○南高校・全景

○同・教室

公男（30）が授業をしている。
生徒は誰も聞いていない。

公男 「授業終わりま…」

金髪のアキラ（18）の一派が、いじめられっ子（18）の背中にゴミを投げている。

公男はアキラ一派のところへ。

公男 「いじめはやめなさい（声震えている）」

アキラ 「遊んでるだけですよ？」

公男 「どう見たって」

アキラ 「遊んでるだけだったってんだろ！」

アキラ、公男の出席簿とチョーク箱を蹴り落とす。公男、びびる。

公男 「とにかく、授業は聞きなさい」

アキラ 「はい」

終了のチャイム。

日直 「起立、礼」

公男、助かった体で教室を去る。

アキラたちはいじめを再開。

○同・夕方・下校時

いじめられっ子に声をかける公男。

公男 「おい、大丈夫か」

いじめられっ子 「大丈夫です」

振り返った彼の顔には、青タンができている。

公男 「大丈夫じゃないだろ」

いじめられっ子 「だったらどうなんですか」

公男 「せ、先生に相談しなさい」

いじめられっ子 「相談したら解決するんですか」

公男 「先生がんばるから」

いじめられっ子 「公男先生、口ばかりじゃん」

いじめられっ子、吐き捨てて帰って

く。

何も言えず立ちすくむ公男。

○帰宅中の公男の中

公男 暗い顔で軽自動車を運転する公男。

公男 「口ばかりか…」

ドンツ。

公男 公男の車が前の車に追突。

公男 「痛…なんて日だよ…」

追突された黒塗りフルスマークの高級車から、**ヤクザの格好をした男**、虎（35）が降りてくる。

公男 「最悪だ…」

虎 「車寄せろ」

○路肩

二台の車の前で話している公男と虎。

公男 「すいませんでした…」

虎 「すいませんで済んだらヤクザはいらねんだよ」

公男 「やっぱりヤクザなんですな…」

虎 「修理代と示談金で100」

公男 「100?なんとかならないですか…」

虎 「ならねえな。あんたが払えないなら

あんたの会社に払ってもらおうか？」

公男 「それは勘弁してください!会社じゃないし…」

虎 「は?学生か?」

公男 「違います!教師なんです」

虎 「教師?どこのだ?」

公男 「南高…」

虎 「ははーん。先生。どうしようか?」

公男 「どうしましょう…」

虎 「おれに勉強でも教えてくれんのか?」

公男 「それならいくらでも…」

虎 「いくらでも?」

公男 「いくらでも…」

虎 「じゃあ明日から頼むぜ先生」

公男 「は？」
虎 「おれの家庭教師になれ。半年後、おれがド底辺でもどっかの大学に受かったら、車のことは15万で許してやる」
公男 「まじで言ってます？」
虎 「まじだよ！こっちはいつでもマジなんだよ！100万か、家庭教師やって15万か、さっさと選べ！」
公男 「か、家庭教師します：」

○ 翌朝・南高校・公男のクラス

年配の先生 「公男先生は都合により半年間休職されることになりました」
アキラ一派、態度悪く笑ってる。
アキラ 「休職だって！だっせー」
アキラ一派、相変わらずいじめられっ子を蹴ったりしている。
年配の先生は我関せず。
いじめられっ子 「やっぱり口だけだ：」

○ 虎の事務所

公男と虎がデスクに座っている。
デスクには大量の参考書。
公男 「そういえば、なんでヤクザさんが勉強なんですか：」
虎 「最近は極道も学歴社会でなあ。大学で経営を学んで一発逆転狙いだ」
公男 「ヤクザも大変ですね：」
虎 「いいか。授業でおれがわからなかったら殴る。おれがテストで間違えたら間違えただけ殴る。わかったな」
公男 「なんで僕がそんなに殴られるんですか：」

虎 「わかったな！」
公男 「はい：」
虎 「じゃあ、授業を始めろ」

○ 何度も虎に殴られながら教える公男

○（時間経過して）夕方

虎、ノートを閉じる。

虎 「先生。けっこうわかりやすかったぞ」

公男 「そりゃちゃんと準備しましたから…」

虎 「なんだよ。普段はちゃんと準備してないのかよ？」

言い返せない公男。

○ 数日後・定食屋・昼

公男と虎が定食を食べている。

虎 「お前なかなかいい先生だと思うぞ」

公男 「そんなことないですよ。僕なんて…」

生徒にもなめられるし。追突した日だって、クラスのヤンキーにすぐまれて…」

虎 「びびって引いちまったのか」

公男 「どうせ僕の言う事なんて誰も聞かないです」

虎 「そりゃお前がそんな根性なしな限り誰も言う事なんか聞かねえよ」

公男 「僕だって一生懸命やってるんです」

虎 「男は結果出してナンボだろうが。おれが全部大学落ちてもお前言うんか？ 僕は一生懸命やりましたって。んなこと言ったらどうなるかわかってんだろうな」

公男 「じゃあ、どうしろっつていうんですか」

虎 「どうしろこうしろじゃねえよ。自分で考えろ。頭使えよ。教師なんだからよ」

公男 「そんなこと言われても…」

虎 「まあ、ひとつ言えるのは…男は自分より強い相手にしか従わねえ」

公男 「ケンカでもしろっつて言うんですか」

虎 「その通り」

公男 「そんなことできるわけないでしょう」

虎 「おいおい、相手は高校生のガキだろ？ 楽勝だろうが。いいか、ケンカだって最後

は頭使えばいいんだよ」

公男 「どう使えばいいんですか」

虎、公男に頭突きする。

公男 「いてー！」

虎 「こう使うんだ。がははは」

公男 「冗談はやめてください」

虎 「マジだよ。額の骨は一番カタいんだ。

理科で習わなかったか？先生よ」

公男 「習いませんよ。いたたたた……」

○ 虎の事務所・モニタージュ

虎に勉強を教える公男のモニタージュ。2人はどンドン厚着になっていく。テストしたり、居眠りしたり。公男は虎のパンチをかわせるようになってきている。

○ 大学受験会場・外・冬

公男と虎が掲示板を見ている。

公男 「ありましたよ！ありました！」

虎 「当たり前だ！おれに不可能はねえ」

公男 「おめでとうございます！ほんとによ

かった：虎さん、がんばりましたね……」

虎 「はははは。先生もな」

公男 「よかった：ほんとに……あ」

公男が見つけたのは、アキラ一派。

黒髪になっている。受かったみたいだ。

公男、目をそらし反対を向く。

虎 「何隠れてんだよ」

公男 「いえ、隠れてなんて……」

虎 「ははーんあんなガキにびびったのか」

公男 「もつといかつかつたんですよ」

虎、公男に封筒を渡す。

虎 「知るか。まあいいや。これ。授業料

だ。15万。半年間世話になったな」

公男 「こちらこそ、ありがとうございます」

虎 「じゃあ耳揃えて、車の15万。もら

おうか」

虎、公男から封筒をぶんどる。

公男 「ああ：そうでしたね……」

虎 「飲みに行くぞ。合格祝いにおごって

やる」

虎、公男を引っ張って行く。

○一ヶ月後・南高校・卒業式後の教室

公男のクラス。公男が教壇に立つ。

公男 「最後まで面倒見れなくてごめん。これからの人生は……」

みんな筒を持って騒いで誰も聞いていない。アキラ一派は蔑むような目でキミオを見る。いじめられっ子も無感情だ。うつむく公男。

○職員室

落ち込んで戻ってくる公男。

外が騒がしい。そこへ、臨時担任をしていた年配の先生が。焦っている。

年配の先生 「公男先生、来てください！」
先生、公男の腕を引っ張っていく。

公男、出席簿とチョーク箱を持ったまま、引っ張られて行く。

○校門

人だかりができている。

公男が分けて入ると、そこにはなんと、黒塗りの車で乗り付けた虎がアキラ一派にからんでいる。アキラ半泣き。

年配の先生 「つ、連れてきました……」

虎 「あんたがこいつらの担任の先生か！」

公男 「と、虎さん……」

虎 「こいつらの担任かって聞いてんだよ！」

公男 「は、はい……そうですが」

虎 「後輩たちにお祝いの言葉でもかけてやろうと来て見たらよ、こいつら大先輩にガンつけてきやがったんだけどどういう

教育してんのかなおたくのクラスは！」

公男 「うちの卒業生だったんですか……」

公男、まわりを見回すと、先生生徒
総びびり。いじめられっ子もいる。

虎 「どういふ教育してるんですか先生！」

公男、虎に近づいて囁く。

公男 「どうしたんですか虎さんやめてく

ださいよ」

虎公男の胸ぐらをつかみ囁く。

虎 「なめられたままでいいのかよ先生」

虎、公男を突き飛ばす。出席簿と

チョーク箱とともに公男吹っ飛ばす。

虎はアキラを軽く、見た目は派手に

蹴っ飛ばす。アキラ泣いてる。

アキラ 「すいません！すいません！こいつ

が！こいつのせいなんです！」

アキラ、いじめられっ子を指す。いじ

められっ子、焦る。

虎 「知るかくそガキ！」

虎、またアキラを蹴る。

公男、いじめられっ子と目が合う。

公男立ち上がり、深呼吸。鋭い目で

公男 「おれの生徒になにさらしとんじや

コラア！」

公男、虎につかみかかる。

虎、応戦。ステゴロが始まる。

公男、慣れたもので、虎のパンチ

をすいすいかわしていく。

「おらあ先生！根性見せてみる！」

公男 「うあああああ！」

公男、強烈な頭突きを虎にお見舞

いする。

ゴンツッ！ 激しい音をたて額がぶつか

りあう。虎、倒れ掛かり公男につか

まり：ささやく。

虎 「おれにもこんな先生がいたらな」

虎、その場に倒れる（ふり）。あたり

は静まり返る。

アキラ、立ち上がって涙をぬぐう。

アキラ 「せ、先生、すげーじゃんかよ」

公男、アキラの胸ぐらをつかんで突

然頭突きを食らわす。アキラ吹っ飛ばす。

公男、他のアキラ一派にも激しい頭突きを食らわして、

公男 「お前ら：いじめられっ子に謝れ」
絶句するアキラ一派。

公男 「あやまることがあるだろうが！」

アキラ一派、しぶしぶいじめられっ子に土下座。

アキラ一派「すいませんでした：」

いじめられっ子、びっくり。そんないじめられっ子の肩を叩く公男。

公男 「卒業おめでとう」

公男、出席簿とチョーク箱を拾って

校舎に向って歩き出す。

虎も立ち上がって、車に歩いて行く。

清々しい笑顔である。

ネクタイをゆるめ、堂々と歩いて行く

公男もまた、額から血を流しながらも、その顔は少し笑っている。

○ タイトル「ヘッド・バッド・ティーチャー」

○ エンドロール

○ 後日・大学の教室

へらへら笑って着席するアキラ一派。

その横へオッサンが座る。よくみると、

虎である。

虎 「へへへ。よろしくな」

戦慄するアキラたち。